

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員全員でつくり、管理者、職員で共有し、実践に努めている。	地域密着の理念がつくられている。ホームの理念を職員全員が柱とし、同じ方向を向き入居者と共に歩んでいる。各々の名札の裏には理念などが書かれている。事務室には理念・方針等が掲げられており職員は常に意識し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の小学校・中学校の行事参観したり、地域開催の文化祭に出展。併設施設合同の行事に地域の方を招待。近隣住民との茶話会も開催した。	地域の行事には積極的に参加している。併設施設と合同で開催される「えべべ祭り」は地域の祭りとなっている。入居者・家族・職員・役場職員・地域住民が参加して盛大に行われている。グループホームの中もその都度開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設と協賛でシンポジウムを開催し認知症高齢者を地域全体で支える大切さを伝えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、活動報告を通じ、協議された意見をサービス向上に活かしている。委員である区長・民生委員の協力で地域交流の機会を拡げるきっかけになっている。	定期的に行われ、意見交換が行われている。区長・民生委員の方々から地域の情報を頂いたり、ホームより地域に向けて情報発信をするなど委員の方々の協力に大変感謝している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等と必要に応じ連絡を取り合い、情報を共有し協力を得ている。	「地域サービス担当者会議」が月に1回開催され、参加している。短期入所者受け入れの指定についても協力をいただき、今年度初めて実施した。村担当者にも運営推進委員をお願いし、情報交換も密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設合同の「行動制限審査委員会」に所属し、身体拘束ゼロに努めており、現在該当者なし。玄関の施錠も夜間以外は行っていない。	玄関の施錠は行っていない。音によるセンサーの設置もない。ベットより転倒の危険のある方については夜間ベット脇にマットを敷くなどの対応をしている。「行動制限審査委員会」で危険性のある方に対しても具体的に拘束をしない方法を考え対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を持ち、チーム内で意識を持って虐待防止に努めている。		

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員共に施設内外の研修に参加し学んでいる。また以前この制度を活用されていた利用者が2名おられたことで内容の理解も出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類に沿って説明を行い理解を図っている。その中で利用者、家族の希望・疑問に対ししっかり受け止めるよう配慮している。解約時は管理者・職員で検討を重ね、家族に十分な説明を一緒に検討した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回介護サービス相談員の訪問、CS(顧客満足)委員会実施のアンケート、意見箱の設置を通して意見を表せる機会を設けている。また家族参画型のホームを目指し、いつでもご意見を頂けるよう心がけ、ご意見・要望は運営へ反映させている	入居者と家族の繋がりを絶たないホームの方針があり月に1回「家族会」を開催している。入居者と家族の交流や家族と家族の交流の中からの意見・要望を職員間で話し合い、運営に反映させている。家族アンケートをとるなどいろいろな角度から家族が意見や要望をあらわす機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回チームカンファレンスを行い各職員が意見・提案を出せるようにしている。出された意見は主任から管理者に報告し検討している。年1回上長と個人面談を実施し意見・要望を出せる機会となっている。	毎月1回定例会が設けられている。入居者の担当制を布いており、ケアプランなど細かい視点で見ることが出来、発言の場も多い。職員間でお互い注意したり分からないことを聞いたりすることが抵抗なく行われる職場風土が築かれている。施設側より年に1回個人面談が実施され、職員にとっては上司に自分の発言を直接聞いてもらえる良い機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に職員個々が自己評価を通し、努力・実績を振り返り、新たな自己目標を設定している。上長評価を合わせて総体的評価を行い、評価結果が各自の向上心に繋がるよう個人面接を実施し意見交換ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修(基礎・専門課程)また認知症研修(実践・リーダー・指導者)をはじめ、職員の経験・力量に応じた法人外の研修参加を奨励、実施。法人内でも研修会が多く設けられ、働きながらトレーニングできるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域全体で高齢者ケアに取り組む視点からケアに関わる多種施設での連携を重視しネットワーク作りに積極的に取り組んでいる。職員も他の地域密着型サービス事業所との情報交換、研修会を実施している。		

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接やグループホームに見学に来ていただく機会を設け、ご本人自身とお話する中で思いや求めていることを受け止めるよう心がけ、安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やグループホームに見学に来ていただく機会を設け、ご家族の不安なこと、困っていること、要望を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要と思われるサービスはグループホームに留めず、併設施設等と協力し合い他サービス利用も含めた対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも「ご利用者とスタッフが喜び、悲しみを共有できるグループホームを目指す」ことをあげ、共に生活しながらその中で学び、支えあう関係性を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画作成時や面会の折、家族の意向を伺い、利用者・家族の絆を大切に共に支援していくよう働きかけ、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別で馴染み深い方に面会の機会を持っていただけるよう声を掛けたり、馴染みの場所に出かけられるよう支援しているが、実施できている方と実施が困難な方がある。	家族は勿論、友人や知人がホームに面会に来る入居者や外出していく入居者など、入居前の繋がりを継続するよう働きかけと支援を行っている。お友達の家へ一週間外泊する入居者もいたが、家族、友人、職員と相互に連絡を取り合いながら支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、必要に応じて職員がさりげなく仲介し円滑な関わりが持てるよう努めている。その際、利用者同士の関わり合いを大切にし介入し過ぎないように注意している。現在利用者同士支えあう関係が築けている。		

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡を取り合ったり、面会に伺いこれまでの関係をなるべく継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の思いを汲み取るよう心がけているが、さらに本人本位の視点で望む生活への支援に努めたい。	入居者の方々の進行は緩やかに感じられた。意思や表現などに差はあるが現在は入居者全員の思いや希望、意向を把握出来ている。日によっては行動や表情からくみ取ることもある。入居者に寄り添い信頼関係を築くことでお互いを理解し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴、馴染みの生活環境・暮らしの情報収集に努めている。一部で個人年表作りもしているが全員の方の個人年表を作成し、更にその方の過ごされてきた暮らしの理解に努めたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせて一日を過ごしていただけよう心がけている。その方の有する力を発揮できるよう、またその時の状態に合わせた支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにてモニタリング話し合っている。家族参加を基本とするが無理な時は担当が直接意向を伺っている。本人の意向も確認し、確認が難しい方は本人の思いを汲み取るよう努めている。全職員が共に考え共有している。	全職員が介護計画の作成に参加している。お互い意見を交換しながら作成した介護計画を担当職員に再び見てもらい確認している。三ヶ月に1回の見直しを行っており、状態の変化がある場合はその都度変更している。入居者本人の希望は必ず伺い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を記入し、気づきや工夫は毎日の申し送りでの伝達や記録、申し送りノートで情報を職員間で共有し実践や介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の複合施設との連携を活かし、医療を始め必要に応じて様々な支援を柔軟に行っている。		

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、地域住民との交流、ボランティアの受け入れ等で楽しみの機会を持って頂いている。今後はさらに一人ひとりに向けた地域資源の把握に努め活用して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望医療機関での受診を支援している。歯科医等、専門医とも連携し、往診の対応も行っている。	敷地内に地域の方々も利用する神城医院があり、家族より依頼があった方は変更している。歯科医は個々の受診先があり往診していただく入居者もいる。協力歯科医院には口腔ケアを指導して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を活用し、相談アドバイスを受けるほか、管理者の医師、併設施設の看護職員と連携を取り行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者である医師が入院先の医療機関との連携に努め、職員も面会等でご本人・家族のメンタルケアに努めている。回復状況により、なるべく早期退院ができるよう、受け入れも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護計画書を作成する折などご本人・家族の意向を伺える範囲で話し合うよう努めている。また、その段階のときには医師、家族、職員で検討し方針を共有している。	「住み慣れた地域で、その人らしく最期まで」が管理者の方針である。ホーム独自の指針書が作られており、項目も細部にわたっている。家族、医師、職員で十分話し合いながら進めている。ホームでの看取りは現在までないが、職員の中には併設老健での看取りの経験者もおおり態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修会を年1回以上全職員が受講。事故発生時に備えマニュアルを作成し対応の周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同の避難訓練を年2回、またホーム独自の避難方法、災害時の対応について職員に周知を図っている。自治体、地域消防団、地域住民、隣接施設と災害時の相互協力体制の協定を結んでいる。	併設施設と合同で年二回避難訓練を入居者も参加し実施している。グループホーム独自の夜間想定や通信による訓練など課題を決め行われている。食糧の備蓄もあり、防災の日に食事として使用し入れ替えをしている。各居室に防災袋が備え付けられ万が一に備えている。今年度中にスプリンクラーの設置が行われる予定である。	

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが意識を持ち、利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように心掛けている。また介護相談員の方に「外部からの視点」で気になる対応がないか訪問時に見ていただくようお願いしている。	入居者の方々の呼び名は苗字や名前とその方の希望される呼び名を使用している。毎月訪問される介護相談員の方に外部からの目線で職員の気づかない点の指摘をお願いし、意見などがあれば職員で話し合い改善につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の状態や理解できる力に合わせて、説明を行い自分で決めて頂いたり、意向を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、時としてやむを得ずホームの流れに合わせていただく事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや、その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力に合わせながら食事作り・片付けに楽しみや、やり甲斐を持って参加していただいている。メニュー会議で希望の献立を立てて頂き、個人の食生活の好みにも対応している。	キッチンに立ち得意の腕を振るい料理作りに参加したり、食器を洗う方やそれを拭く方など、職員の見守りの中で出来ることを行っている。食事中も入居者と職員の会話が弾み、美味しい食事がなお一層美味しく感じられた。昼食後は地元で採れた野沢菜の漬け込みに大勢の入居者が参加していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表でその日の食事・水分の摂取量に把握を行っている。一人ひとりに合わせた量・形状・好みに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング等一人ひとりに合わせたケアを行っている。また義歯の衛生管理も行っている。		

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣に合わせて支援している。おむつ使用を避け自然排泄の継続に努めている。見守り・介助の必要な方にはご本人の負担にならないように配慮しながら行っている。	各居室にトイレが備え付けられている。自立している方やパット使用の方など個々の対応を行っている。夜間は自立の方も職員が見守り、事故のないように細かい配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い便秘に気を付けている。便秘薬だけに頼らず、プルーンを食したり食事内容に気を付けている。また軽い運動を取り入れたり、腹部マッサージを行う等、日常生活で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯ではホームの都合に合わせていただく場合が多いが、ご本人の気持ちを大切に無理強いをしないようにしている。入浴希望があれば応じるようにしている。	ユニットにこだわらず午前中あるいは午後の入浴と入居者の希望があれば浴うようにしている。着替えの時間なども含め職員との会話を楽しみながら入浴している。車椅子の方も職員の介助で入浴している。希望により併設施設の機械浴も利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜共その方の状態や生活リズムに合った、安眠・休息が取れるように、一人ひとりに合わせて時間、環境等配慮(コタツ、ソファも活用)し支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は処方箋とつき合わせを行い、医師からの説明は受診記録、職員連絡ノートを活用し職員間で情報の共有を図っている。配薬・服薬は二重チェックを実施。症状変化に気をつけ、速やかに医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意なことを発揮し、力を活かせるよう支援し、充実感を持っていただけるよう努めている。またその方の嗜好(晩酌等)、楽しみごと大切にし、個々に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に全て応えるのは難しいが、可能な時にはできるだけ希望にそえるよう努めている。また、家族の協力もいただいている。	食料品の買出しの時、職員と一緒に外出し、スーパーなどに出かけている。身体の状態が無理な方もいるが、外の空気にふれることを目的に玄関先の広場でお茶を飲むなどの工夫をしている。「ふるさと巡り」で入居者の旧の生活の場や村などを訪問している。	

かたくりの郷・りんどうユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。ご本人の希望時に買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことができる方には家族への手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたレイアウトや花を飾り季節感を味わっていただけるようにしている。心地よく過ごしていただけるように音、明るさ、温度にも配慮している。	2ユニット共通の玄関には地域の文化祭に出品した作品や「えべえべ祭り」のテーマをモチーフにした作品が飾られている。共有空間には炬燵が設けられたスペースやソファがある。居室にいるよりみんなの中にいることの方が落ちつくのか、ソファで横になる人や炬燵でくつろぐ人など様々な過ごし方であった。入居者や職員の動きも落ち着いており、各入居者のペースを尊重した流れで日々を送っていることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子やソファを置き、和室にはコタツも設け、思い思いの場所で過ごしていただけるようにしている。一人で静かに過ごしたり、仲間と過ごしたい時に、希望通り過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には馴染みの家具などの持ち込みを呼びかけているが、諸事情で実施の困難な方もいる。各居室はその方の好みを大切に、過ごしやすいよう環境作りしている。	居室にはトイレがある。夜間トイレ使用時の事故防止に備え、居室の空間を作るため調度品の設置に工夫をしている。居室入口の表示はいろいろで、家族の方が書かれた名前が表示されたり、手作りの暖簾が掛けられたりしている。家族の写真がたくさん飾られた居室もみられた。窓からは白馬の雄大な自然が眺められる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた説明や、必要時にはご本人に解りやすいように居室やトイレに目印を付けるなど工夫している。		